

第1回 日本地質学会ジオパーク支援委員会議事録

出席者：高木，矢島，田近，三田村，竹谷，天野

開催日時：2008年8月10日（日） 13:00 ～ 16:00

場所：東京文化会館 応接室 No.1

議題：

(1) ジオパークの現状と課題について（矢島）

- ・ジオパークの目的は，単に地質学的に珍しい事象を紹介することにとどまらず，地質や地形などを資源として地域の振興をめざすことである。
- ・2004年にユネスコ支援事業である世界ジオパークネットワーク（GGN）が発足した。
- ・現在はUNESCO色が強くなっているという印象である。
- ・現在，世界で57地域がGGNに登録されている。
- ・現時点で登録されているジオパークは，ヨーロッパ型と中国型に分けられる。

中国型は，ヨーロッパ型に比較して派手で，地域を囲い込み，入場料を取っているが，入場料は高い。その他の地域では，オーストラリア，ブラジルにも出来た。日本がめざすジオパークはヨーロッパ型になるのではないかと思う。

- ・UNESCOからは日本の加入希望強い。
- ・日本においても，現在申請されているものに加えて，より多数のジオパークを作る必要あり。その際，行政+地質学者+博物館+地元の人との協力が必要となる。
- ・ジオパークは，GGNに登録された後も，その維持が大切である。そのためには，ジオツーリズムの継続的实施などを通じて若者の関心を高めていくことが必要である。
- ・ドイツのジオパークであるTERRA VITA訪問の報告があった。

範囲は100km×50kmと広範囲をカバーしている。鉱山跡や博物館なども含まれているが，特別珍しいものは無く，地味な感じであった。サイクリングをしながら見学するといったドイツ流のジオパークであった。

(2) 日本ジオパーク委員会報告（高木）

- ・日本ジオパーク委員会の役割は，GGNならびに日本ジオパークネットワーク（JGN）への申請ジオパークの審査である。今年に限っては，初めての申請なので，両者を同時に審査する。
- ・5月28日に第1回委員会が開催され，9月4日に第2回の委員会が開催される。（委員会URL: <http://www.gsj.jp/jgc/indexJ.html> 参照）。

・7月18日にGGN申請が閉め切られ、洞爺湖有珠山・糸魚川・山陰海岸・四国（室戸）・島原半島（雲仙）の5カ所からの申請があった。JGN申請締切は8月29日である。

・今年中（12月）にUNESCOに3カ所のジオパークをGGNとして申請する予定。委員会はそれまでに5カ所から3カ所に絞るための審査を実施する。

・その結果は、2009年夏にUNESCOからでる予定である。

（3）各支部の現状報告

・北海道支部（田近）

➤ 洞爺湖，アポイ岳，白滝が現在進行中である。

➤ 洞爺湖では，火山マイスター制度などを導入している。これは他のジオパークでも参考になる。

➤ 支部として，各ジオパーク候補地との具体的なやりとりは現時点ではまだ無い。

➤ 北海道地質百選（ジオサイトの開発）を開始した。今後のジオパーク申請に役に立つ可能性が大きい。

・近畿支部（三田村）

➤ 地質の日（5月10日）のイベントとして，地質見学会を実施した。

➤ 山陰ジオパーク推進協議会と連携をとり，専門委員の推薦を行った。ただ，参加市町村間の温度差あると感じている。また，関連した博物館が無いため，地質専門の人材の確保も難しい。

➤ 今後は，①地元対象の見学会の実施，②国立公園リーフレット作り（印刷は協議会に依頼することも検討中）などを計画している。

・東北支部（竹谷）

➤ 現時点では，支部としては未検討である。

➤ 個別には，磐梯山に関する展示を実施した。これを機に，磐梯山ジオパークの検討を，パンフレットの作成などを手始めとして始めたい。

➤ 東北地方全体からの候補地の掘り起こしも検討したい。

（4）地質学会の支援のあり方について

1) 自治体への広報と啓発

・分かりやすいパンフレットの作成

➤ 「一般向けパンフレット」の作成を，年内完成を目標に開始する。渡辺，高木，矢島，天野がたたき台を作成する。

➤ 各地域の「ジオ観光マップ（仮題）」を作成する（EX.磐梯山，茨城県北部）。各支部で検討開始することとした。支援委員会の事業計画を立てる（共通のスタイルを検討する必要がある）。

➤ パンフレットに盛り込むべき事柄

- ◇ 露頭での説明板作成への協力（例えば、教育委員会などに対する協力）
 - ◇ ツアーガイド育成への協力
 - ◇ ツアー用パンフレットの作成への協力
 - ◇ ジオ観光マップ（仮題）シリーズの作成協力
 - ◇ 子供達への普及・教育
- ・関係者へのレクチャーを行う。ジオパークの引き金となる講演会を支部主催で実施する。
 - ・支部のサポート体制の整備
 - 支部内でのサポート体制の整備
 - ジオパーク設立協議会の設立の検討。協議会が大きくなりすぎる場合は、WGの設立も必要である。
 - 支部として支援する場合の予算措置（本部に要求する）。そのためには、支援委員会としての事業計画に関連した予算要求（講演会・見学会の講師謝金・旅費など）を出す。臨時予算が可能ならば、なるべく早い時期に活動を開始する（可能ならば、理事会に臨時予算請求をする）。
- 2) 申請書類作成に際しての専門家としてのアドバイスを、GUPIなどと各支部が協力体制を取って行う。
- 3) ジオツアーへの協力
- ・看板の整備への協力
 - 情報の収集（支部）
 - ・ツアーガイド育成への協力
 - ・ツアー用パンフレットの作成への協力
 - 具体的要請が来た場合は支部で対応することとする。
- 4) 子供達への普及・教育